

沖縄県における 2013 年の毒ヘビ咬症被害の疫学調査

上江洲由美子・寺田考紀・盛根信也・久高潤

Epidemiology of Venomous Snakebite in Okinawa Prefecture in 2013

Yumiko UEZU, Kouki TERADA, Nobuya MORINE and Jun KUDAKA

要旨： 沖縄県において 2013 年に報告された毒ヘビ咬症件数は 72 件で、そのうち畑での受傷が約 4 割を占める。市町村別では石垣市でのサキシマハブによる咬症被害が多く、次いで、ハブ、ヒメハブ、サキシマハブによる被害がうるま市、糸満市、南城市で発生している。咬症被害は 1 年を通じて発生しているが、特に初夏と秋頃に被害が集中している。

Abstract: In 2013, 72 cases of viper bites occurred in Okinawa, 40% of which are cases that happened in the field. Most of these cases occurred in Ishigaki city, caused by the Sakishimahabu (*Protobothrops elegans*). Additionally, cases occurred in Uruma city, Itoman city and Nanjyo city, caused by Habu (*Protobothrops flavoviridis*), Himehabu (*Ovophis okinavensis*) and Sakishimahabu (*Protobothrops elegans*) are also of a high number. Of all cases occurred throughout the year, most have been during autumn and early summer.

Key words： 毒ヘビ咬症, ハブ, サキシマハブ, 沖縄県, Venomous Snakebite, *Protobothrops flavoviridis*, *Protobothrops elegans*, Okinawa

I はじめに

沖縄県では、毎年ハブ類などの毒ヘビによる咬症被害が発生しており、復帰前には年に 400 件以上に上り、死亡例も数名発生した¹⁾。しかし近年では年に 100 件前後を推移し、死亡例もほとんどない。本県では毒ヘビによる咬症被害の予防を図るため、1964 年から毎年被害の実態調査を行っている。今回、2013 年に報告された毒ヘビ咬症被害状況についてまとめたので報告する。

II 方法

沖縄県内で発生したハブ類咬症患者の詳細は、診療にあたった医療機関の協力によって「ハブ咬症患者調査票」に基づき、保健所を通じて本所に報告される。報告された調査票を集計し、2013 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに発生したハブ類咬症被害状況についてまとめた。

なお、被咬者がヘビの種類を確認していない場合、八重山地域（石垣市、竹富町）では地上において実害のある毒ヘビはサキシマハブだけ²⁾³⁾であるため、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満市ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性もある⁴⁾が、これらの地域でヘビの種類が特定できない事例については、最も可能性の高いハブ咬症として集計した。

III 結果

2013 年に報告のあったハブ類咬症被害はハブ咬症 42 件、ヒメハブ咬症 7 件、サキシマハブ咬症 20 件、タイワ

ンハブ咬症 3 件（うち疑い例 1 件）の計 72 件で、ハブ類咬症による死亡者の報告はなかった。また、ガラスヒバアやウミヘビ類等のハブ類以外の毒ヘビによる咬症事故は確認されなかった。

1. 発生場所及び受傷状況

(1) 受傷場所

ハブ類による咬症被害を受けた場所は畑が 28 件 (39%) で最も多く、次いで、屋内と屋敷内を合わせた屋敷全体が 26 件 (36%)、それ以外の合計が 18 件 (25%) であった (表 1)。

表 1. ハブ類による咬症場所別件数 (2013年, 沖縄県)

場所	ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
屋内	0	0	3	1	4
屋敷内	13	4	3	2	22
畑	17	2	9	0	28
道路	3	0	2	0	5
山林草地	4	1	1	0	6
その他屋敷外	5	0	2	0	7
不明	0	0	0	0	0
計	42	7	20	3	72

(2) 市町村別

10 件以上の被害が報告された市町村は石垣市 13 件で、サキシマハブによる咬症被害である。次いで 5 件以上の被害が報告された市町村はうるま市 7 件、糸満市 6 件、南城市 6 件で、ほとんどがハブあるいはヒメハブ咬症であるが、糸満市ではサキシマハブ咬症が 3 件発生している (表 2)。

表2. 市町村別ハブ類による咬症件数 (2013年, 沖縄県).

受傷場所 市町村名 ¹⁾	ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
石垣市	0	0	13	0	13
うるま市	7	0	0	0	7
糸満市	3	0	3	0	6
南城市	4	2	0	0	6
国頭村	4	0	0	0	4
名護市	2	1	0	1	4
宜野座村	2	1	0	1	4
竹富町	0	0	4	0	4
読谷村	3	0	0	0	3
八重瀬町	3	0	0	0	3
久米島町	3	0	0	0	3
東村	1	1	0	0	2
今帰仁村	2	0	0	0	2
伊平屋村	1	1	0	0	2
宜野湾市	2	0	0	0	2
大宜味村	0	1	0	0	1
本部町	0	0	0	1	1
恩納村	1	0	0	0	1
金武町	1	0	0	0	1
中城村	1	0	0	0	1
伊江村	0	0	0	0	0
嘉手納町	0	0	0	0	0
北谷町	0	0	0	0	0
沖縄市	0	0	0	0	0
北中城村	0	0	0	0	0
西原町	0	0	0	0	0
浦添市	0	0	0	0	0
豊見城市	0	0	0	0	0
南風原町	0	0	0	0	0
与那原町	0	0	0	0	0
渡嘉敷村	0	0	0	0	0
渡名喜村	0	0	0	0	0
那覇市	0	0	0	0	0
不明	2	0	0	0	2

¹⁾ ハブ類の生息していない市町村は除く.

(3) 受傷時の行動

農作業中, 草刈り中やキビ刈り中など畑や庭で受傷した件数が 43 件, 畑等以外の屋外で受傷した件数が 22 件, 就寝中など屋内で受傷した件数が 4 件のほか, 受傷状況不明が 3 件であった (表 3).

(4) 受傷部位

上肢指 27 件 (37%), 手 13 件 (18%), 足 12 件 (16%),

下腿 8 件 (11%), 上腕 6 件 (8%), 前腕 4 件 (5%), 下肢指 2 件 (3%), 下腿・頭部各 1 件 (各 1%) であった (表 4).

2. 発生時期

咬症被害は 1 年を通じて発生しているが, 4 月から 6 月の初夏及び 11 月の秋頃に被害が集中している. 発生件数はそれぞれ 11 月が 12 件, 5 月が 9 件, 4 月が 7 件, 6 月

表3. ハブ類による咬症時の被害者の行動 (2013年, 沖縄県).

咬症時の行動	ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
屋内					
就寝中	0	0	0	1	1
用便中	0	0	0	0	0
屋内の他の動作	0	0	3	0	3
屋外					
通行中	6	3	5	1	15
キビ刈り中	3	0	1	0	4
農作業中	13	0	4	1	18
草刈り中	13	3	5	0	21
ハブ扱い中	1	0	0	0	1
屋外の他の動作	4	1	1	0	6
不明	2	0	1	0	3
計	42	7	20	3	72

表4. 受傷部位別ハブ類咬症件数 (2013年, 沖縄県).

部位/種	ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
上部					
指	14	2	10	1	27
手	7	2	3	1	13
前腕	4	0	0	0	4
上腕	5	0	1	0	6
下部					
指	1	0	1	0	2
足	5	3	4	0	12
下腿	5	0	2	1	8
大腿	1	0	0	0	1
頭部	1	0	0	0	1
躯幹	0	0	0	0	0
計	43	7	21	3	74

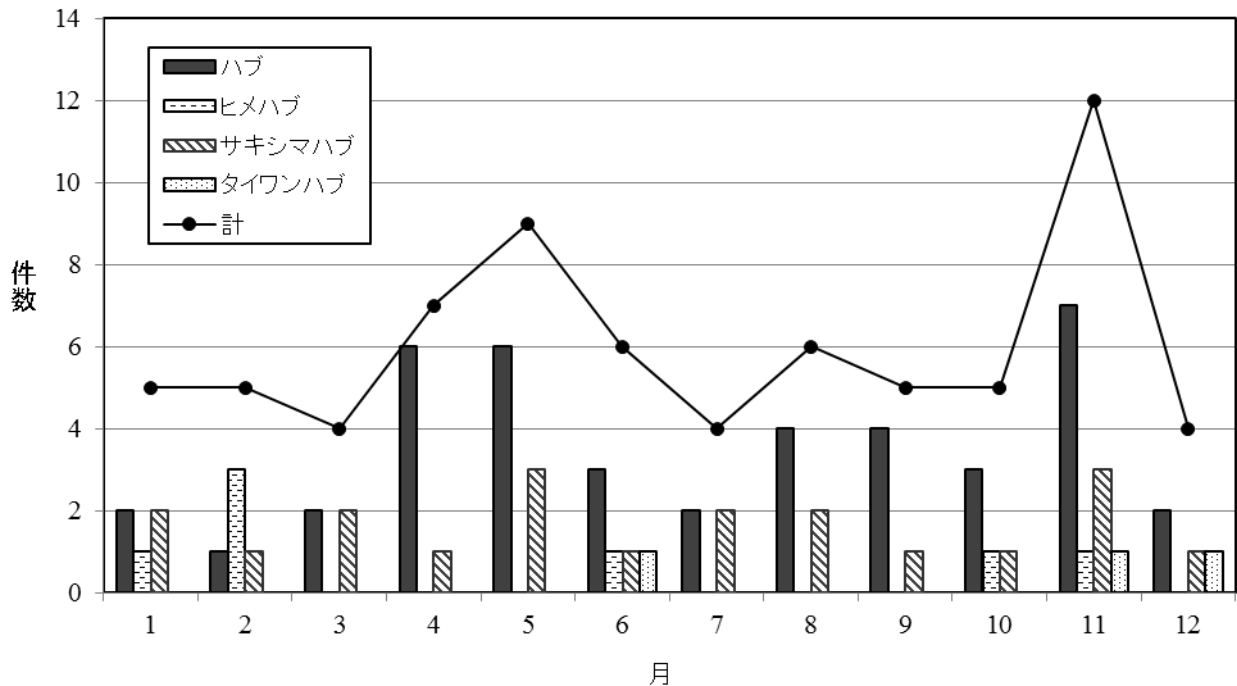


図1. 月別ハブ類咬症件数(2013年, 沖縄県)

と8月が6件の合計40件で、全体の5割がこの時期に集中している (図1)。

<謝辞>

当該調査にあたっては咬症患者様及びその関係者の方々にはじまり、各医療機関の方々、ならびに各保健所職員には調査票の記入・報告等大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

IV 参考文献

1) 福村圭介・山川雅延・山城興博他 (1970) ハブ咬症の疫学的研究 特にハブ及びサキシマハブ咬症の疫学

相の比較について. 琉球衛生研究所所報, 5: 137-145.

2) 池原貞雄・与那城義春・宮城邦治・当山昌直 (1983) 琉球列島動物図鑑 (1) 陸の脊椎動物, 新星図書出版, 321.
 3) 日高敏隆・千石正一・足田努・松井正文・仲谷一宏 (1996) 日本動物大百科 (5) 両生類・爬虫類・軟骨魚類, 平凡社, 109.
 4) 寺田考紀 (2011) 沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両棲類学会報 特集: 爬虫両生類における外来生物問題とその対策, 2: 161-168.